

平成 27 年度 第 2 回千歳市総合教育会議 議事録

日 時：平成 27 年 11 月 30 日（月）15：00～16：20

会 場：千歳市役所議会棟 2 階大会議室

出席者

（構成員）市長	山口 幸太郎
教育委員長	山田 律子
教育委員	佐々木 義朗
教育委員	明石 光正
教育委員	荒井 由紀恵
教育長	宮崎 肇
（事務局）企画部長	千葉 英二
企画部次長	鈴木 隆夫
企画課長	林 伸一
企画課企画調整係長	山田 浩之
企画課企画調整係主任	中谷 裕子
（教育部）教育部長	島倉 弘行
教育部次長	澤田 徹
教育部次長（学校指導担当）	西野 典男
企画総務課長	荒川 裕昭
企画総務課総務係長	堀田 裕

内 容

千葉企画部長

本日は、お忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。

ただいまから、平成 27 年度第 2 回千歳市総合教育会議を開催させていただきます。

それでは、ここで山口市長からあいさつをお願いいたします。

山口市長

皆さまこんにちは。

ただいま案内がありましたように、第 2 回目の総合教育会議となります。どうぞよろしくお願いいたします。5 月 28 日に第 1 回目の会議を開催いたしました。その際に千歳市教育大綱を策定いたしました。今後も教育委員会との連携をさらに深め、学力向上や教育環境の整備などの教育施策を更に推進していこうと考えております。

現在進めている施策であります。一つには学力向上への取組として学習指導員の増員による習熟度別少人数指導や ICT 教育の充実を図っているところであります。またいじめ問題についてはスクールソーシャルワーカーの配置により、より積極的な家庭への働きかけや関係機関との連携などのソフト事業を進めております。ハード面については、新たな学校給食センターの整備について検討しているところであります。

これらの取組につきましては、ご存知のとおり本年 3 月に策定いたしました「千歳市移

住・定住促進プロジェクト」に貢献する施策として取り組んでいるところであります。人口減少社会の中で、これから千歳市の人口を減らさず、増やしていくためには、なんとしてもまちの魅力や市民満足度を高めることにより、まちの価値を高めることが市民の皆さまに住んでよかったと実感できるようなまちづくりにつながるものであると思っております。また、他のまちからの移住者を増やすためにも、魅力・価値のあるまちであるということは大変重要な要素であり、そのようなまちづくりの一環として教育の充実は欠かせないものであり、大きな柱であると認識しております。今後も、確かな学力の向上、健やかな身体、豊かな心という三本柱を中心とした施策について、市といたしましても全面的にバックアップしていきたいと思っております。

本日は、この後に「平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果」と「教育施策」についてを議題とし協議させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

千葉企画部長

次に、このたび 10 月 1 日付けで教育委員に、荒井由紀恵さんが新たにご就任されております。ここで、一言ご挨拶を願いたします。

荒井委員

10 月 1 日付けで教育委員を拝命いたしました、荒井由紀恵と申します。教育委員として 2 か月が経過しましたが、沢山のことを学ばせていただきました。今日も、このような会議に出席させていただき、とても緊張しております。どうぞよろしくお願いいたします。

千葉企画部長

ありがとうございました。

ここからは、議長の山口市長により進行いたしますのでよろしくお願いいたします。

山口市長

さっそく議題に入ります。

議題の 1 点目「平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果」について事務局から説明を願いたします。

西野教育部次長

はい。

「平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果概要」について説明させていただきます。

調査の概要・調査の内容につきましては、一つ目が教科についての調査、二つ目が生活習慣や学習環境等に関する児童生徒質問紙調査、三つ目が学校の教育活動や教育課程に関する学校質問紙調査であります。

(別紙「平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果概要」について説明。)

各学校では、自校の調査結果と合わせて分析・考察を行い、授業改善を含めた学校改善プランを作成し、学力向上に向けた取組が進められております。

この結果につきましては、結果概要として市ホームページにて公表しており、今後は千

歳市学力向上検討委員会でも結果に検討を加え次年度の学力向上に向けた提言、取組内容を反映させていきます。

以上です。

山口市長

このことについて、意見交換を行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

佐々木委員

この調査では、前回よりも少しずつ結果が上がってきたということがわかり、大変喜ばしいことだと思う反面、これがかえって児童生徒たちへプレッシャーとならないか心配です。点数を上げることばかりが先行してしまうと、プレッシャーになるという危険性もあるのではないのでしょうか。この辺を先生たちがうまく指導していくにはどうしたらいいのか、ということについて個人的には課題だと思っています。

山口市長

この学力調査では、学力として点数を上げることだけに特化する取組なのか、全体の底上げを含めて実力を付けていこうという取組なのか、様々なタイプがあると思いますが、千歳市の取組状況はどういうものなのでしょうか。

宮崎教育長

特化しているということはないです。どちらかと言うとこの学力調査に関しては全体的な底上げにどうしても力点が置かれることになります。下位層の25%の子どもたちを上げていかなければ、全国平均には到達できないということもあり、上位者を上げるというものではないです。

千歳市の施策はこの調査に特化しているわけではなく、ICT や学習支援など様々な取組があります。例えば習熟度別少人数指導については、すべてのレベルの子どもたちのレベルアップを目指しています。このように全体的な底上げということを意図して施策を進めています。

山口市長

佐々木委員のご指摘のあった件についても十分に意識しながら進めていくということですね。

山田委員長

ICT 機器の導入や学習支援員の配置など、環境面でとても充実していますが、子どもたちに魅力的な授業計画を立てることも大切です。勉強はおもしろいんだと思えるような学校生活を子どもたちにはぜひ送ってほしいと思います。その実現のために、校長先生や教頭先生が先頭になって、日々創意工夫・努力されている先生たちを引っ張って行ってくれていると思っています。

また、ICT 機器を活用した教育の推進など、千歳市での教育への取組は管内でも先行していると思っています。このことについていけない子どもがいないように、全ての子どもに平等にその機会を与えることができるようにしてほしいです。

山口市長

私から質問ですが、最近では視覚的な授業で子どもたちの興味を引くことで大変成果が出ているとは聞いていますが、その機器等を使いこなせるようなスキルを先生たちは持っているのか、また特別に学んでいるのでしょうか。

佐々木委員

先日、ある小学校を視察した時には、電子黒板を使った画期的な授業が展開されていました。正直言って大変失礼だとは思いますが、年配の先生たちにはなかなか新しい機器に馴染むのは大変なのではないかと思っていましたが、きちんと使いこなされていて子どもたちの興味を引き出すような授業でした。数年前よりも格段に先生たちのスキルも上がっていると感じました。

山口市長

西野次長、どうですか。実態として、先生たちのスキルは子どもたちの興味の高さについていっているのでしょうか。

西野教育部次長

はい。機器の活用方法についての研修を受講したり、子どもたちへの向き合い方等について日々研究しています。

山口市長

では、大丈夫ですね。

明石委員

まだ始まったばかりですから、この機材を使った授業を行うことによって3年5年というスパンで見ると学力の向上への効果はあると思います。

ただ、こうした手法で子どもたちの興味を引くような魅力のある授業が実現できたとしても、大事なのはやはり家庭学習ではないでしょうか。宿題の内容はどのように評価されているのでしょうか。また、家庭では宿題をやって終わりで家庭学習の時間が足りていない子どもたちが多いのではないでしょうか。

佐々木委員

家庭学習の時間は、全国平均から見るとだいぶ少ないようですね。

山口市長

そのことについては、学校とPTAがともに生活習慣の改善について運動をしていますので、その成果が表れてくれるといいのですが。

ここで質問ですが、学校の授業がデジタル化され子どもたちの興味が高まってきていますが、家庭に帰っても同じような環境で勉強ができる子とそうでない子の差は広がってしまうのでしょうか。

西野教育部次長

家庭環境による差はもちろん出ますが、例えば環境に恵まれない子どもについては放課後に視聴覚室等を使用して学習をさせたりという手だては取っております。

山田委員長

この資料の 6 ページに「ノート指導の充実」とありますが、これは大変重要なことで、子どもが実際に持っている自分自身のノートを使って、自分の勉強の足跡を残すということが家庭学習にもつながってきます。ですから、ICT による最新の機器による授業と、「書く」という勉強の基本となる作業を大事にすることでお互いの効果が高まってくるのではないのでしょうか。

山口市長

山田委員長は、実際に教壇に立たれて教育の現場にいらっしゃったので、色々と研究されてきたことと思いますが、時代が変わったとはいえ残すべきものというものはあると思います。どうなのでしょう、残すもの、変わるべきもの、そのメリハリというのは実際どのようにしているのでしょうか。

宮崎教育長

基本は何も変わりません。ただ、効率的で子どもたちの目を引き付ける授業を実現するために、電子黒板等の ICT 機器は必要であると認識していますし、実際に学校訪問して授業風景を視察してみると、やはり子どもたちみんなが前を向いて授業に集中している様子が見られました。いずれにしても、ICT 機器はツールの一つにすぎないですから、最終的には先生による板書とノート指導をしっかりすることが大事です。この点については、先生も十分認識していますし、先ほど西野次長が申し上げたとおり研修センターにおいて ICT 機器を取り入れた授業の在り方などの講習や、石狩管内教育研究会での授業指導の研究や研修会を行っています。石狩管内ではほかに ICT 機器を導入している自治体がありますので、異動してもすぐに対応することができます。

やはり、一番の課題は家庭での生活習慣だと思っています。家でのゲームやテレビの時間が長くて家庭学習時間が短いなどといった生活習慣を改善するために、千歳市 PTA 連合会の取組について私たちも一緒になってより力を入れていく必要があると思います。

山田委員長

親の生活習慣というのは子どもに直結すると思います。例えば、読書会を進めるねらいは大人の読書生活が向上するとおのずと子どもの読書生活も向上するというものであります。

少し話が逸れますが、子どもの自己肯定感を育むためには、子どものことを本当に大事にすることが大切です。それでは本当に大事にするということはどういうことなのか。ただ単に褒めるとか甘やかすということではなく、どんな姿を大人が子どもに示していけばいいのか、こういうことがすべて家庭環境や生活習慣につながっているのだと思います。

明石委員

今は、親が電車や公共の場でそばに子どもがいるのにも関わらず携帯電話でのゲームを

している場面をよく見かけます。これがこのまま時代が流れていくと、親子関係の希薄化や学力の低下につながらないかと心配になります。

佐々木委員

千歳市 PTA 連合会の運動（千歳市家庭生活宣言）によって、意識的な部分はだいぶ改善されているのではないのでしょうか。

荒井委員

今後、アンケート調査等（千歳市家庭生活宣言の効果等について把握する調査）によりその成果を確認していくところで、様々な場面で PR させていただいておりますが、実際にどのくらいご家庭で活用していただいているかというのはまだわかっておりませんので、これから調査結果を見て把握していきます。

佐々木委員

これからこの全国学力・学習状況調査が公表されることで、子どもたちの士気を高めることにつながればいいと思います。個人の点数だけの競争ということではなく、自分のまちのレベルをみんなで上げていこうという意識が高まればいいですね。千歳市は格差が少なく、環境としては十分ですからすぐに学力は上がるかもしれませんね。

山口市長

ここで出ました様々なご意見は、今後の教育施策をどのように進めていくかを検証する際の参考にさせていただきます。

以上で、1点目の「平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果」について報告済みとさせていただきます。よろしいですか。

全員

異議なし。

山口市長

では、次に 2 点目の「教育施策」について事務局から説明をお願いいたします。

島倉教育部長

はじめに平成 27 年度の主な教育施策、後半に平成 28 年度以降の教育施策の課題についてご説明いたします。

（別紙「平成 27 年度の主な教育施策の取組状況について」により説明。）

（別紙「平成 28 年度以降の教育施策の主な課題について」により説明。）

平成 28 年度以降については、あくまでも課題・検討事項であり、決定事項ではございませんのでご理解をいただきますようお願いいたします。

山口市長

ただいまの説明について、何かご意見ご質問はありますか。

佐々木委員

新体力・運動能力調査の件で、このようなテストのほかに、体力向上を目的とした取組は普段から行われていますか。

宮崎教育長

まず、この新体力・運動能力調査は以前から行っておりますが、北海道は体力が低いという結果が出ていますが、実はそんなに低いことはないのではないかと考えています。この調査の実施に当たっての前段の準備、練習を行ったところ予想通り数字が上がりました。ただ、北海道の場合は冬になると外遊びをする機会が減るため、全国と比べて体力が低いということもあるのかもしれませんが。

明石委員

体力というのは学力につながるような気がします。根気、持久力というように。

宮崎教育長

これも先ほどの家庭学習と同じで、家に帰ってからどのような過ごし方をするかということが影響しています。どのように遊ぶか、体を使うかということで体力が培われます。

学校では、休み時間に体育館や外で体を動かして遊ぶ時間がありますが、また、北海道は雪の問題があります。昔は寒くても雪が降っても関係なく外で遊びましたが、今はそのような姿を見ることも少なくなりました。

荒井委員

千歳市はとても恵まれていて、冬であれば、青空公園や各学校にスケートリンクが整備されており、温水プールも通年利用ができます。これらを有効に使うには問題もあり、交通の便が悪い場合は保護者の方の送迎も必要になってきます。長期の休みのときに、子どもたちだけでも通えるようにするなど、そういう状況が整えば嬉しいなと思います。

山田委員長

外で遊べなくなったというのは、時代の流れもあるのでしょうか。

明石委員

それぞれの家庭の環境もあると思います。まず、昔と比べて子どもの数が減っていますし、郡部においては周りに同年代の子どもがいないというところもあります。こういうことも、外に出て遊ぶという機会が減る一因ではないでしょうか。

山口市長

それでは、ただいまの平成 27 年度・平成 28 年度以降の教育施策については、今後それぞれの課題毎に話し合いをする機会がありましたら、また問題提起等させていただきます。

次に 3 点目のその他について、これまでの議題以外に何かありましたらお願いいたします。

全員

特にありません。

山口市長

それでは、事務局から連絡事項がありますので、お願いいたします。

千葉企画部長

今年度の会議はこれで終了となります。

新年度の会議については、第1回会議を来年4月下旬から5月下旬に、いじめアンケート調査の結果及び教育施策について、第2回会議を11月頃に全国学力・学習状況調査の結果及び教育施策についてをそれぞれ議題とし、開催する予定です。このほか、緊急に開催する必要があると認められる案件が発生した場合は、随時に開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

山口市長

本日で2回目となりますが、委員の皆さんもこの会議についてだいぶ把握されたと思いますが、ここで整理をさせていただきます。

この総合教育会議においては、各議題について事務局から説明をいたしまして、それに対する意見交換を行い、そこで出された課題等については教育委員会会議の中で具体的に検討していただくということによろしいでしょうか。

教育長いかがですか。

宮崎教育長

はい。

山口市長

今後、平成28年度の取組については、予算の関係もあろうかと思えます。そこについても教育委員会会議の中でご検討いただきたいと思います。

全員

異議なし。

山口市長

次回の会議は新年度となりますが、緊急に開催する必要がある場合は双方から開催についての呼びかけを行うということにさせていただきます。

全員

異議なし。

千葉企画部長

以上をもちまして、平成27年度第2回千歳市総合教育会議を終了いたします。
大変ありがとうございました。